

## Agile Nations における核融合の安全規制の議論について

研究開発局戦略官付

### 背景

○「フュージョンエネルギー・イノベーション戦略」において、フュージョンエネルギーの産業化に向けて、ビジネスの予見可能性を高めて、民間企業の参画を促進するためには、安全規制や国際標準化の重要性が謳われている。

○特に、海外市場獲得のためには国際協調による規制の議論を行うことが重要であることから、Agile Nations のワーキンググループ（以下、WG）に参画し、安全規制の議論を実施することとしていたところ。

（参考1）フュージョンエネルギー・イノベーション戦略（令和5年4月14日 統合イノベーション戦略推進会議）における安全規制に関する記述の抜粋

- 安全規制に係る同志国間での議論に参画すること【文、外】

米国や英国等では安全規制に関する議論が先行しており、海外市場獲得のためには国際協調による規制の策定及び標準化が必要なため、Agile Nations（アジャイルネーションズ）の枠組みの下で「国際的な核融合規制へのアプローチ」に関する議論を行うためのワーキンググループ等に参画し、令和5年度にはワーキンググループとしての議論をまとめる。

（参考2）Agile Nations

参加政府間の革新的な規制の実践に関する協力を促進することを目的とした政府間規制協力ネットワーク。メンバー：カナダ、デンマーク、イタリア、シンガポール、日本、UAE、英国。

### これまでの議論と今後の予定

○本 WG は、メンバー間で核融合規制に関する調和的で集合的なアプローチ(harmonized collective approach)を策定することを目的として、英国の呼び掛けにより設置（メンバー：英国、日本、UAE。オブザーバー：カナダ、シンガポール）。

（参考3）WG 設置要綱から抜粋（仮訳）

核融合は、エネルギー生産のカーボンニュートラル化に向けた世界的な取り組みに貢献する、低炭素で、安全で、持続可能なエネルギー源である。核融合研究の近年の進展により、民間投資の増加も受け、この新興技術の商業化はかつてないほど近づいている。危険性の低さに見合った核融合規制のための国際的なアプローチは、核融合に対する国民の信頼を築き、イノベーションを推進し、この新興技術の商業化及び展開を促進するのに役立つだろう。

○4月25日に第1回 WG を開催し、英国、米国（英国による代理発表）、日本における核融合の安全規制に関する状況を説明し、意見交換を実施。また、7月4日に第2回を開催し、勧告の作成に向けた意見交換を実施。

○今後、WG を複数回開催し、11月には勧告をとりまとめる予定。